られるものか，あるいは，遂行される運動にのみ関係するのかは明らかではない。そこで，同一の運動を用いて異なる課題をサルに行なわせ，その時の前頭前野ニューロンの活動を記録し，両者の比較を行った。

サルは片方の手でハンドルを握り，手首の屈伸により，決められたスタート位置から目標位置までハンドルを動かす。スタート位置，目標位置はランプで提示する。課題は，単純な遅延反応と，遅延を伴う弁別課題の2種を用いた。弁別課題時には，目標位置は，スタート位置の真上にあるランプの色の相違（赤又は緑）により提示した。

各々の課題で，遅延期のニューロンの活動を調べたところ，活動変化の見られないもの，屈伸両方向ともに活動増加を示すもの，屈伸の方向により活動の異なるものが見出された。課題間で比較したところ，有意な相違を示したものは少数（2／17）で，大部分は課題間で活動の相違は見られなかった。

従って，このような前頭前野ニューロンの活動は，遂行される運動に関係し，課題のちがいによる変化は少ないことが示唆された。

海外交流

Yayat Ruhiyat（インドネシア）
Padjadjaran 大学数学自然科学部学生助手
研究題目「霊長類の生態に関する研究」
国費外国人留学生，研修員
昭和53年1月19日～昭和54年5月31日

Edy Brotoiswaro（インドネシア）
Padjadjaran 大学生態学研究所，研究員
研究題目「霊長類の比較社会学的研究，とくにヤセザル類について」
日本学術振興会外国人招へい学者
昭和53年4月24日～昭和54年6月15日

Amsir Bakar（インドネシア）
アンダラス大学理学部講師
研究題目「霊長類下顎骨の性的二型の形態学的研究」
国費外国人留学生，研修員
昭和52年1月8日～昭和53年7月31日
日本学術振興会発展途上国科学協力事業・外国人招へい学者

Christian Vogel（ドイツ連邦共和国）
Göttingen 大学人類学教室主任
研究題目「①ニホンザルの野外観察・生態学・社会行動学的観点から。②各研究所大学における各種講演・特別講義・ゼミナール等，霊長類学・人類学の情報交換」
外国人研究員，客員教授
昭和53年8月10日～12月9日

Shiv Raj Kumar Chopra（インド）
Punjab 大学人類学教室主任教授
研究題目「古霊長類学および人類進化」
外国人研究員，客員教授

所内談話会

昭和53年度には所内談話会が7回開催された。以下に演者と演題を記す。

1. 第63回　5月13日（土）
昭和52年度科研費海外学術調査南米調査隊帰朝報告会。　近藤　四郎
渡辺　毅
瀬戸口烈司
伊沢　紘生（JMC）
西邨　顕達（同志社大）

2. 第64回　6月7日（水）
帰朝報告
University of California と Oregon Regional Primate Research Center
酒井　正樹
熊崎　清則

3. 第65回　9月13日（水）
ジャワ原人の発掘　相見　満

4. 第66回　10月11日（水）
The Langur Population of Jodhpur (Rajasthan, India)
Christian Vogel（ゲッティンゲン大）

5. 第67回　11月14日（火）
インドネシアの文化紹介
Amsir Bakar（アンダラス大）

6. 第68回　1月19日（金）
冠状血管の生理学 ― カリフォルニア大学より帰国して ―　目片　文夫

7. 第69回　2月7日（水）
東アフリカ遊牧民の生活 ― スライド供覧 ―
田中　二郎